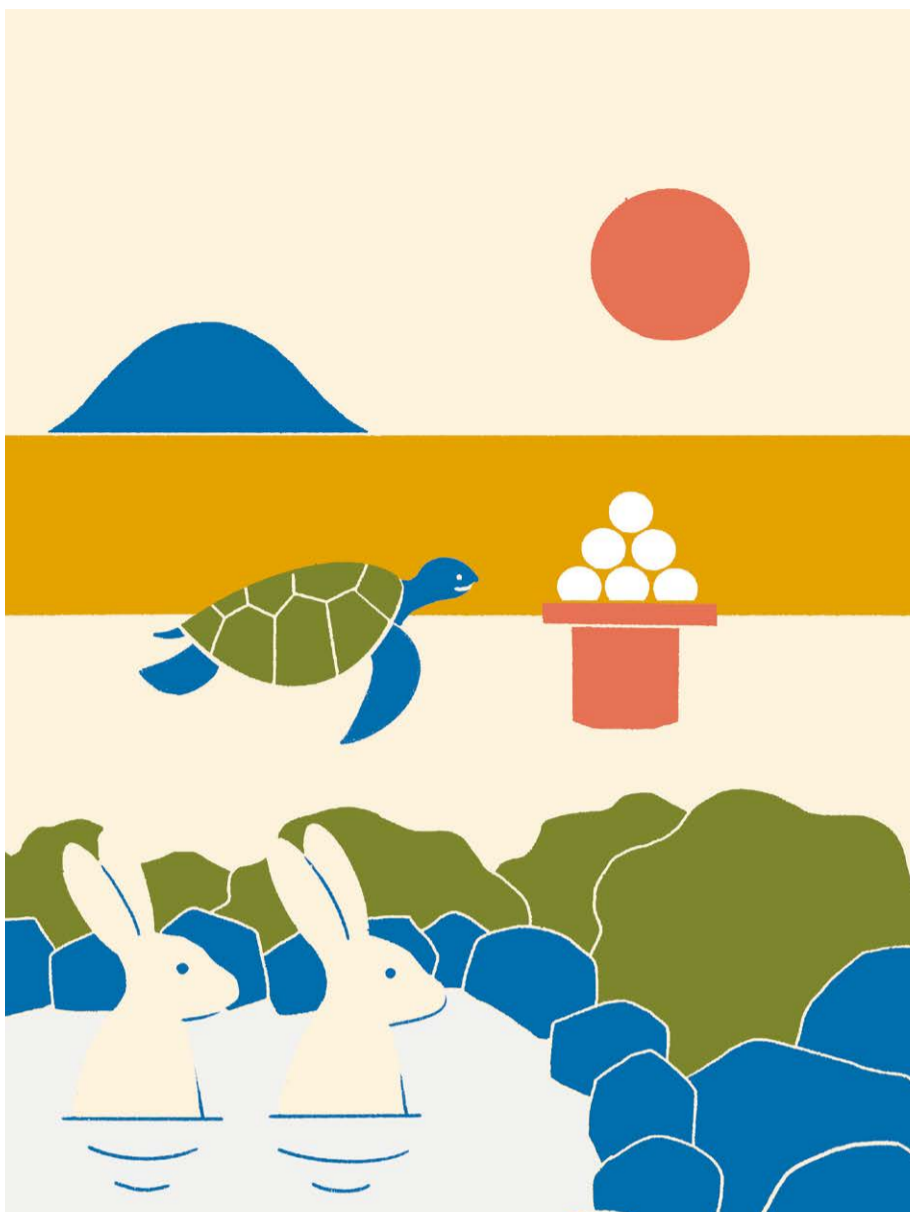
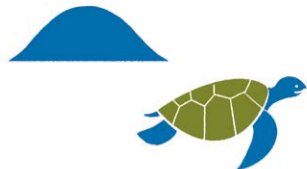


東ZINE



COVER



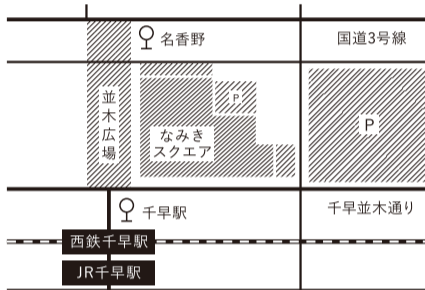
左：勝馬海水浴場から見える沖津島。大潮の干潮時には歩いて渡ることができる。右：ウミガメも産卵に来る志賀島。自然豊かな海岸で、生き物観察をしながらの遊びもおすすめ。

なみきスクエア

なみきスクエアクラブの活動拠点、なみきスクエアは、東市民センター、千早音楽・演劇練習場、東図書館、証明サービスコーナーなどの機能を持つ複合施設です。

ACCESS

〒813-0044 福岡市東区千早4丁目21番45号
JR鹿児島本線「千早駅」下車 西口より徒歩約1分
西鉄貝塚線「千早駅」下車 西口より徒歩約1分



東ZINE vol.6 2023年9月22日発行 発行：なみきスクエアCLUB TEL 092-542-0224 HP <https://www.namiki-sq.jp>

勝馬校区

志賀島ビジターセンター

2023年夏、勝馬校区にある「志賀島ビジターセンター」がリニューアル。展示資料の学術監修や展示スペース全体のデザインなどに携わった海と博物館研究所の所長・高田浩二さんにお話をうかがいました。

聞き手：重村直美

人が育つ、勝馬地区の新しい拠点へ。

志賀島では多くの市民団体が地元の貴重な自然を守り、歴史や文化を次代に伝えようと活動なさっています。その皆さんには「志賀島ビジターセンター」を新たな活動拠点として役立ててほしい。ここに集まる人同士が出会い、ボランティアに参加する人が増え、地域のアイデンティティが継承されていくといいですね。人と人が出会い、人を育てる場になってほしいと願っています。

もっと知ってほしい志賀島の魅力。

志賀島は宝の山のような島なんです。金印に始まる歴史、特殊な地形、多様な生物が生息する海や野山、個性的な人々……どこを切り取っても深掘りするほどにおもしろい。ウミガメも産卵するんですよ。こんな豊かな島が人口160万人を誇る福岡市のすぐ目の前にあるなんて、他の地域では考えられません。福岡市民の中にはこの貴重な魅力に気づいていない人もまだまだ多い。だから、地元の人たちが「志賀島ってすごいでしょ！」「と、ぜひ発信してほしいですね。

地元の自然や歴史を学ぶ意義。

たとえば、気仙沼の山奥にある町には、明治時代に人々の食料難を救ったジンベエザメのお墓があり、今も代々守られています。こうした慣習は古くから今に至るまで全国各地の市町村に残っています。そして、調べていくと人間がこれまでどのように自然と付き合ってきたかがよく分かります。これは、気候変動が進み自然災害が増えるであろう、これからの世界を生き抜くヒントでもあります。



高田浩二さん

1976年より大分マリン・パレスやマリンワールド海の中道の運営に携わる。2005年「水族館における海洋教育に関する研究」で博士号を取得。2019年、海と博物館研究所を設立。大学や専門学校の講師や博物館・水族館の展示物のディレクションに携わる他、海洋教育を通して子どもたちの可能性を引き出す取り組みに勤しむ。



「志賀島ビジターセンター」とは？

志賀島特有の自然や歴史に関する情報を、幅広い世代の方々に楽しみながら学んでいただくための施設です。施設の前身は昭和45年に開設された「しかのしま資料館」ですが、リニューアルを機に展示資料の内容やそれらの見せ方は大きく変わりました。特に、デジタルサイネージなどのデジタル技術を活用し、リアルな映像を通して志賀島の構造や生態系を学べるようになったのは大きな変化のひとつです。

フィールドワークへの入り口に。

大切にしたのは、来館者が自主的に参加したくなるコーナーづくりです。生き物に触れて観察できたり、実験を楽しめたり。大きな窓からは山が見えて、興味が湧いたらそのまま島の植物観察に出かけてもOK。海でも山でもいいから、フィールドワークに行ってみよう！と思うてもらえたら嬉しいですね。



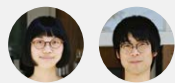
みんながハッピーになれる学び。

自分たちが住んでいる町の自然や歴史のことって、意外と大人も知らないんですよ。だから、先生も親も子どもと一緒に自分の町について知る機会を持ちませんか。「この川にはどんな生物がいるのかな？」とか「昔はどんな町だったんだろう」とかね。そういう対話を丁寧に重ねていった地域には、まわりの自然や生き物を慈しみ、他者を思いやる気持ちも根づいていきます。

自然は多様性の集まりだから豊かなのであり、人間もその一部です。多様性が失われると、われわれの命も危ぶまれる。そうならないためにも、自然や歴史を学ぶ姿勢が大切なんですね。すぐ近くの海や山、史跡こそが優れた教材です。皆さんの町にこどもも大人も先生も地域も、みんながハッピーになれる学びの輪が広がることを願っています。



海辺の町にある、築100年の元時計店を改装した喫茶店/書店。自家焙煎コーヒー豆を丁寧にハンドドリップした一杯と「ずっと大切にしたい一冊」をテーマにセレクトした本がお楽しみいただけます。



「秋の月と音楽」

本とコーヒーをつれて



私はコーヒー屋だが、趣味は作曲のため、歌に関することを書きたい。

秋の月を見上げると、童謡「うさぎ」を思いおこす。不思議で魅力ある旋律をもち、十五夜にかかせない存在。伝統的な都節音階(みやこぶしおんかい)をもつ童歌(わらべうた)である。

この歌は作詞・作曲者が不詳である。作者がわからない歌は数多いそうだ。あの有名な「仰げば尊し」も作者不詳であるということには驚いた。

私はつい、想像してしまう。

こらえきれない想いを純度高く言葉に乗せ、わがままなメロディーで歌いあげた誰かを。それに共感し、伝え、広めた人々を。そうやって今日まで絶えず残った歌だからこそ、尊い美しさを宿すのではないか。



想いあふれる創作は、いつだって人の心を動かす。そのようなクリエイションに出会うと、私の心は跳ねる。みんなで創り続けよう。知名度の出番は、ここにはないのだ。



うさぎは機嫌のよいときに跳ねるそうだ。遠い月に何かを思い、嬉しくて跳ねたのか。仲良くしてもらえたらどうか。

おつきみ、といえば団子。お供はお茶がよいけれど、コーヒーも大変おすすめです。

Sleep Coffee and Roaster

学生が活躍するまち

福岡サンタウォーク



1



2



3

福岡サンタウォークとはサンタウォークとは、地域のひとたちみんなとサンタクローズの衣装で街を練り歩き、病気に立ち向かうこともたちにクリスマスプレゼントを贈る地域密着型チャリティイベントです。イギリス発祥の

イベントで、世界各地に広まりました。福岡では、九州産業大学経済学部の学生が実行委員会を組織し、Fukuoka Santa Walkを企画、2017年度から自治会や企業などの協力を得ながら実施しています。

1. 2022年のサンタウォーク参加者。2. サンタウォークの連携企画、なみきスクエアで謎解き。3. ちはやをよくする会の皆様へ企画提案。



2022年のサンタウォーク行進の様子

■昨年度の取り組み
2022年度は、GARDENS CHIHAYA ちはや公園をメイン会場に開催しました。なみきスクエアでの謎解きなど連携企画も加え、総勢115名がサンタウォークを楽しみました。イベントの収益金は「療養環境整備基金」寄付金として福岡市立こども病院に届けました。

■一緒に千早のまちを歩いてみませんか？
今年度は、「千早がもっと好きになる」をテーマに、2023年12月10日(日)に開催する予定です。おこさまから大人まで、様々な方々にお楽しみいただけるよう、準備を進めているところです。サンタのコスチュームを着て、千早のまちをいっしょに歩いてみませんか。
福岡サンタウォークの情報は、公式ホームページやフェイスブックからご確認ください。

なみきスクエアCLUB

なみきスクエアCLUBは、自分の好きなことや得意なことをかけ合わせながら、みんなのアイデアを形にしていける創造的な活動です。「アートイベント」「遊びと学び」「はじめての○○」「ひろばづくり」の4つのテーマで活動しています。

いっしょによりみち およこカフェ

なみきスクエアでは、小さなおこさまといっしょに、親子がゆっくりできる「およこカフェ」を開催中です。夏は冷たい、冬は温かい飲み物を用意しています。親子で楽しめる遊びや簡単なものづくりも体験できます。育児の話をしながらカフェタイムをお楽しみください。パパもママもあかちゃんもいっしょにお気軽にお立ち寄りください。

information

【時間】11:00~15:00 【参加費】無料
【会場】11/15(水)、12/14(木)ひまわりひろば多目的スペース
10/21(土)、2/17(土)、3/18(月)ひまわりひろば会議室1
【対象】0~3才までのおこさまと保護者



楽しく学びながら、たくさんの成長を 遊びと学びの コミュニティスクール



「遊びと学びのコミュニティスクール」は、幼児から大学生まで様々な年齢のこどもたちが「ダンス・演劇・音楽・美術」などの舞台芸術のプロの専門家や、地域の人たちと一緒に様々なワークショップを積み重ね、ミュージカルをつくりあげていきます。こどもの主体性や協同性、コミュニケーション力を育みます。来年3月31日(日)の公演に向けた出演者を募集します。

information

【お問合せ】Tel:090-7458-3470 Mail:namikisquareclub@gmail.com

<https://www.namiki-sq.jp>

東区で食べる

東区で食べる秋の味覚

料理研究家の宮村ゆかりさんがおすすめするレシピと東区の食のこぼれ話をご紹介します。

料理家
宮村ゆかりさん



千早を拠点にスパイス料理やローフードの料理教室「ミヤムの恋するcooking」を主宰。栄養士として栄養指導、レシピ開発、ケータリングなど料理家として活動中。

Recipe Vol.6

「さつまいもの月見団子」

お豆腐入りのもちもちの皮でしっとりとしたさつまいも餡を包んで香ばしく焼いたお月見団子です。

材料(12個分)

- 【餡】
 - さつまいも…200g
 - 牛乳…大さじ2
 - 砂糖…50g
 - はちみつ…小さじ1
- 【皮】
 - 木綿豆腐…120g
 - 水…30~40ml
 - 白玉粉…120g
 - 油…適量

作り方

1. ボウルに豆腐を崩し入れ、白玉粉と水を加えて耳たぶくらいの固さによくこね、20分ほど休ませて12等分しておく。
2. さつまいもは皮を厚めに剥いて水にさらし、蒸して温かいうちに滑らかに潰しておく。
3. 2と残りの餡の材料を鍋に入れて弱火で加熱しながらよく練り合わせて冷ましておく。冷めたらこちらも12等分に丸めておく。
4. 1の皮を伸ばし、2の餡を包む。丸めて油を表面に塗っておく。手に油を塗って丸めてもよい。
5. テフロン加工のフライパンに薄く油を塗り、生地が透明になって両面に美味しくそうな焼き色がつくまで焼き上げて完成。



「十五夜は芋名月」

9月29日(金)は中秋の名月。月の満ち欠けが暦として大切な役割を果たした太古の時代から、最も身近な行事としてお月見が行われてきました。ススキや団子、さつまいもや里芋、栗、カボチャ、葡萄などを供えて、収穫の感謝と豊作の祈りとしてさげられていました。また、十五夜は「芋名月(いもめいげつ)」と呼ばれるほどお供え物に芋類は欠かせないものでした。東区でもさつまいもの産地、福岡市の「いもどころ」として有名なのが奈多地区です。昔、土地が砂地でやせていたことからさつまいも以外育てるのが難しかったことから、さつまいも畑が増えていったそうです。こちらの地区ではきっと、十五夜には祈りや感謝の気持ちを込めてさつまいもがお供えされていたでしょうね。

